

葉ごぼう

「葉ごぼう」には、「野菜類」「葉菜類」「レタス類以外のきく科葉菜類」「葉ごぼう」に適用のある農薬を使用すること。

————— 発病・加害時期
 ═══════ 発病・加害最盛期

作型・病害虫名		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
無加温半促成 トソネル早熟 普通	ハウス												
	↑												
	↑												
うどんこ病 菌核病 黒条病 黒斑細菌病 黒斑病 アブラムシ類 ネキリムシ類 ハスモンヨトウ	収穫												
	トネル被覆												
	は種												

うどんこ病

留意事項

- 1 施設栽培で、日照不足、乾燥時に発生が多い。
- 2 昼夜の温度差が大きくなると発生が多い。
- 3 QoI剤<<11>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 4 アミスター20フロアブルは、薬害を生じる恐れがあるので、浸透性を高める展着剤を加用しない。

防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 密植を避け、間引きは早めに行い、風通しを良くする。
- 3 チッソ質肥料の多用を避ける。
- 4 被害葉は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) <<11>> 【2000倍 21日/1回】
 - ・ [気門封鎖剤](#) <-> (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

菌核病

留意事項

- 1 気温20℃前後、多湿条件で発生が多い。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 2 菌核が土中に残って伝染源となる。

防除方法

- 1 連作を避け、田畑輪換を図る。
- 2 施設栽培では換気に努める。
- 3 夏期たん水して、土中で越夏している菌核を腐敗させる。
- 4 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ロブラール水和剤](#) <2> 【1000倍 30日/2回】

黒条病

留意事項

- 1 気温15～20℃、多湿条件で、葉面の濡れ時間が1日以上の時、発生が多い。

防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 施設栽培では換気に努める。
- 3 過度な密植は避け、過繁茂とならないようチッソ質肥料の多用を避ける。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ラリー水和剤](#) <3> 【4000倍 21日/2回】

黒斑細菌病

防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 被害葉は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 チッソ質肥料の多用を避ける。

黒斑病

留意事項

- 1 長雨は発生を助長する。

防除方法

- 1 連作を避け、まめ科、なす科及びうり科作物以外との輪作を行う。
- 2 被害葉は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。

アブラムシ類

留意事項

- 1 ウイルス病を媒介する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

- 1 は種時、もしくは生育期に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) < 4 A >
【6kg/10a 全面土壌混和 は種時/1回】
【6kg/10a 株元散布 生育期（収穫21日前）/1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を、葉裏を中心に散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) < 3 A > 【3000倍 14日/2回】
 - ・ [アドマイヤーフロアブル](#) 劇 < 4 A > 【4000倍 14日/2回】

ネキリムシ類

留意事項

- 1 日中よりも、ネキリムシ類の活動する夕方に施用する。

防除方法

- 1 は種時に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ネキリエースK](#) < 1 B > 【3kg/10a 土壌表面株元処理 は種時～子葉展開期/2回】

ハスモンヨトウ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 < 1 3 > 【2000倍 7日/3回】
 - ・ [ノーモルト乳剤](#) < 1 5 > 【2000倍 14日/2回】
 - ・ [BT剤](#) < 1 1 A > （IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。